



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思ひます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合つてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思ひます。
よろしくお願ひいたします。

★資料名

泣いた赤鬼

★今回の道徳の授業のねらい

友達同士の相互の信頼のもとに、人格を尊重し合いよりよい人間関係を気付いていこうとする心情を育みます。

★お話のあらすじ

人間に恐れられていた赤鬼は心が優しい鬼で、人間の友達がほしいと思つていたが、うまくいかなかった。それを知つた友達の青鬼は、自分が人間に嫌われる行動を取ることで、赤鬼をヒーローにし、赤鬼と人間が仲良くすることができるように行動する。その後、青鬼は赤鬼と人間の仲を邪魔しないために旅立ってしまう。そのことを後から手紙で知つた赤鬼が泣いてしまう。

★子どもたちの授業の振り返り

- ☆私は今まで、色んな友達に大切にしてもらいました。私も友達を大切にすけれどみんなのようにいっぱいはいしていません。私も青鬼のように優しくなりたいです。
- ☆これまでも友達とは遊んだり、協力し合つたりしていたので、これからもするようにしたいです。
- ☆今まで、友達のことを思つて悲しんだり、後悔したりすることはなかったなと思ひます。自分が青鬼の立場なら、自分を犠牲にするような作戦はしないと思ひます。
- ☆授業をして、自分が知っている友情の他に、たくさんの友情があることが分かりました。でも、どうして自分を犠牲にできるのかが不思議です。
- ☆私は、今まで自分を犠牲にして友達を助けたことがありませんでした。でも今日この授業をやって、これからは自分ができることなら自分を犠牲にして、友達のために色々なことをしたいです。

★家庭で考えてほしいこと・話し合つてほしいこと

今回、子どもたちにも保護者の皆様にも考えていただきたいことがあります。それは、「自分を犠牲に他人を助けることは本当によいことなのか。」ということです。どの学年の道徳の教材でもよく出てくるのが「自己犠牲」の考え方です。あたかもそれが美德かのように扱う内容もあります。本当にそれは正しいのでしょうか。私は授業をしつつ、いつも疑問に思ひます。確かに自分よりも他人を優先する場面、場合はあると思ひます。ただ、忘れてはいけないことは、「人生の主人公は自分自身だ。」ということです。子どもたちの人生も、まずは自分を中心として考えるべきではないでしょうか。自分の思ひを諦め、他人を優先し続ける人生は本当に豊かでしょうか。自分の人生を大切にしつつ、他人に寄り添う。そのバランスのとりの方を生きていく中で見つけていくことが大切です。

「友達は大切。家族ももちろん大切。でも、本当に大切なのは自分自身なんだよ。」と何かの機会にお話しし、他人とのバランスの取り方についてもぜひ、一緒に考えてみてください。